

クマによる人身被害調査報告書③

事故概要		男性1名が自宅玄関でツキノワグマと遭遇し、臀部をかまれて負傷
発生日	日時	令和7年10月29日 午後5時00分頃
	天候	晴れ
発生場所	住所	沼田市中発知町
	環境	住宅地
	山／里の別	里
被害者	年代・性別	69歳男性
	被害状況	軽傷（右臀部を噛まれ、右肩と腕に擦過傷）
加害個体	頭数	1頭
	大きさ等	体長1m
事故状況		居間の雨戸を閉めるため玄関を出た直後、東側約4m先に体長1mほどのクマを発見。被害者が玄関に戻ろうとした際、クマが襲いかかり、右臀部を噛まれ、右肩と右腕を爪で引っ掻かれた。被害者はクマとともに玄関扉に倒れかかったが、クマはすぐに離れて東側へ逃走した。
事故の原因・考察		<p>発知川河川敷の藪を滞在場所とする若いクマが、周辺の果樹園に餌付いていたことが背景にあるのではないかと想定される。事故発生場所の周辺の果樹園においてクマによる被害が繰り返されており、電気柵などの防除対策が未実施であった。</p> <p>被害者宅は河川敷と果樹園を結ぶ移動経路上にあり、クマが餌場へ移動する途中で偶発的に遭遇したことが直接的な原因と推測される。</p>
考えられる改善点		<p>(住民側の対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行政への通報の徹底 <p>クマの目撃や果樹園被害が発生した際には、風評被害や慣れによる未通報を避け、必ず行政へ報告する。早期通報により、餌付きのエスカレートを防ぎ、迅速な捕獲や対策が可能になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果樹園の電気柵設置の徹底 <p>被害が少ない地域や高齢化で設置が困難な果樹園でも、電気柵を設置することでクマの侵入を防ぐ。行政の</p>

指導や補助制度を活用し、設置率を高めることが重要である。

○生活上の注意と誘引物管理

ゴミや米糠の管理を徹底し、クマを誘引しない環境を作る。放棄された力キやクリなどの果樹はクマの餌となるため、伐採や管理を行う。さらに、センサーライトの設置や外出時の周囲確認など、個人レベルでの安全対策を習慣化する。

(行政側の対策)

○加害個体の捕獲

発知川河川敷の藪に滞在している可能性がある加害個体を早期に捕獲し、再発防止を図る。

○河川敷藪の刈り払い

クマが逃走した先にある発知川の河川敷の藪は、広い場所では幅が 100 メートルほどあり、鬱蒼としている。この河川敷の藪は、クマの移動経路となっているとともに、日中の滞在場所にもなっていると思われるため、クマの移動経路や隠れ場所となる藪を伐採し、人目に付く環境を整えることで、住宅地への出没を防ぐ。

○広報車による巡回と情報周知

メーリングリストだけでなく、広報車で直接住民に出没情報や注意事項を伝える。特に高齢者が多い地域では効果的である。

○放棄果樹伐採の推進と補助

力キやクリなどの放棄果樹はクマの誘引源となるため、伐採を積極的に推進する。電気柵の購入補助と同様に、伐採費用の補助や伐採自体を行政が推進して、放棄果樹を無くすことが望ましい。